

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

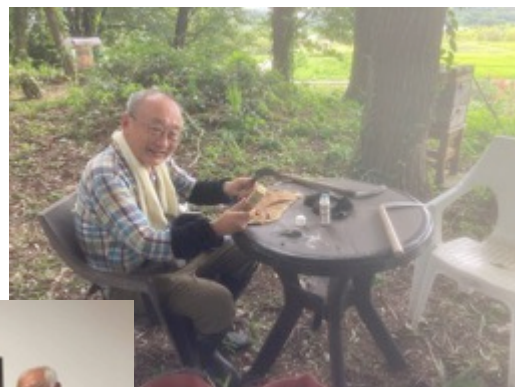
月間テーマ : *Fasting to heal the World*

2025
2月

2024-25 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

埼玉クラブ
思い出アルバム

今月のブリテンは1頁に掲載できそうな新しい写真も無く、いいチャンスとばかりクラブテーマ「市民に知らせよう」に従って、衣笠メン所蔵の古写真を数枚掲載する。部外者にはつまらないだろうが、ワイズの多彩な？場面を知ってもらうにいい。今回のエッセイはワイズとも繋がっている吉野氏が「孤独な生活」について考えさせてくれる内容だ。



[写真メモ] ・かつての定例活動「心のふるさと歌声集会」ツアー。温泉で裸のつきあい。(2015年11月)
・市民田んぼで素人翁には楽な作業を、と鎌研ぎ。簡単じゃない(2021年8月) ・閉会后、初代パナーと記念写真(2020年4月) ・皆でスピーチ。「マイクを放せ」「だから話そうとしてるんだ」(わかる?)(2016年9月) * 写真とメモは順不同だが、分かるはず。

今月の聖句

「エルサレムの平和のために祈れ。あなたを愛する人々が安らかであるように。あなたの城壁の中で平和があるように。あなたの宮殿の内が、平穏であるように。」

(詩篇 122 篇 6-7 節)

3月「ミモザ」例会

日時 : 3月 17日(月) 10:00 ~ 12:00

会場 : 市民活動サポセン (パルコ 9 階)

プログラム : 多事争論でおねがいします。



3月 夜談会

日時 : 3月 10日(月) 午後 6 時 ~ 8 時

会場 : サイゼリア (浦和駅東口)

▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場 (覗いてください)

◆◆◆◆エッセイズ◆◆◆◆

◆「孤独・孤立防止」再考

吉野 理



社会福祉協議会には年に数回の研修会有る。

昨年 11 月の研修は「孤独・孤立防止に向けた地域づくり」というものだった。全国調査のデータや法律についてなど資料があり参考になった。しかし一つ気になったことがある。講座の一番初めに「孤独や孤立を感じている世代は？」という問いかけで始まり、男女ともに比較的若年層が孤独を感じている結果報告から始まった。個人的に私も学生時代のほうが孤独感が強かったような思い出があり、結果そのこと自体は納得できる。

これは比較的若年層のほうが学校、仕事など定期的に、半強制的に人と関わる機会が多い可能性が高いけれど、孤独を感じているということかと思われる。しかしそのあとの資料で、配偶者・相談相手・同居人の有無などにおいては「無し」のほうが孤独は強い傾向だ。そしてさらに、そのあとの資料として、人との繋がりについての法律や、交流、関りの重要性について掲載されていた。つまり人と関わる機会がありながらも孤独を感じる若年層がいる一方で、配偶者や相談相手の場合は孤独ではない。



このあたりの違いについての考察がない状態で、つながりの場を増やしていこうということの意味に疑問が残る。繋がり方によっては、かえって繋げることによってより孤独を強めることになりはしないだろうか。また、孤独を感じていながら、人間関係の煩わしさからあえてそれを望む人に、どれだけ繋がりを提供しようとするのがいいのか。全体を管理するための都合として繋げさせるのは、かえって孤独を強める。学校における孤独は、場合によってはそのケースの一例ではないだろうか。SNS など

でいつでも繋がれる現代では、繋がれる孤独のほうが深刻に思われる。◆

* 吉野 理(まこと)氏は 40 代前半。社協の業務以外に、複数の青少年活動に長年ボランティアとして携わっている。埼玉ワイズの例会・夜談会にも参加。写真：2022 年 11 月 衣笠メン、浅羽メンと早朝サイクリング試行。見沼田んぼへ、いざ出発。

◆ 旅するワイズメン

上松寛茂

「今後の Y's の在りようはどうあるべきか」について、2 月 16 日(日)の夜 8 時から東日本区主催の ZOOM によるワイズナイトフォーラム II が開催され、東日本区内の各部の Y's の衰退状況が報告され、いくつかのクラブの立て続けの解散が伝えられた。



Y's の目的は、① 各地の YMCA を支援 ② 地域社会に貢献 ③ 国際的な奉仕活動 の 3 点に集約される。そのどれもが中途半端になっているのが現状ではないか。「楽しくなければ Y's じゃない」は埼玉クラブの重鎮で奈良傳賞(ワイズに貢献)受賞者の小峰通孝さんの口癖だった。確かに Y's の活動は本来楽しいはずのもの。埼玉クラブではどうするか。まずは遊ぶことを提案したい。遊びとは何か。それは学ぶこと、スポーツに親しむこと、旅すること—諸々が遊びだ。



YMCA に奉仕することは YMCA の施設を利用して YMCA の利益に貢献すること。お馴染みの御殿場市にある東山荘、山梨県山中湖村の東京 YMCA 山中湖センター、富士宮市の富士山 YMCA グローバル・エコ・ビレッジなどを積極的に利用したいものだ。季節ごとに春夏秋冬の 4 回、1 泊程度の合宿形式で定期的実施してはどうか。高齢者が多いワイズ、ヒマとカネは多少ある。健康のための温泉旅行もいい。数人でもワイズメンが集まれば中身は何とかなる。親睦も深まる。先日、ワイズの有志で浦和の別所沼公園を散歩した。楽しく有益だった。身近なところの新発見でもあった。それと、中断している「わいわいパソコン教室」を復活し、PC の扱いの上達を目指したい。◆

活動・会議メモ

◆ 2月「夜談会」

今月 10 日の晩、浦和駅東口「サイゼリア」にて開催。今回も 2 テーブルに分かれて、様々なテーマについてそれぞれ楽しい議論が展開した。今回は特に高岡メンが、ご自身が制作に関わった「市民が選んださいたま百景」（2010 年発行・168 頁）を二冊持参。多くの写真と解説を市民が投稿し、選定/選考委員会が十の分類基準に沿って選んだもの。皆でさいたま市の多様な景観を楽しむことができた。巻末には選定から



漏れたものも含む全写真と撮影者名が数ページにまたがって掲載されており、委員会の市民への感謝の思いが伝わった。（浅羽 記）❖

出席：森下・浅羽恵・大輪・高岡・浅香・宮原・上松・浅羽（敬称略）

◆ 2月「うぐいす」例会

今月で 10 回目となったジェンダー学習は、今も根深い日本の男優位の社会体質を「空気」と「島国国民」に目を向けて話し合った。話題は女性週刊誌からスタートしたが、海外生活の経験者も複数いて、自然と日本と海外における他人同士の親切心や、高齢者対応の違いなど多岐にわたった。3名のゲストを含め、参加者同士忌憚なく意見を出し合えたと思う。改めてワイズ独特の自由な環境な雰囲気の大切に気づかされた。閉会后、外国籍の于さん（40 代）が話しやすく聴きやすい会だと言ってくれたのが嬉しかった。

それ以外の件

- ・衣笠メンがバナー用の伸縮棒を紹介（写真）。
- ・高岡メンが夜談会で関心を集めた「市民が選んださいたま百景」を一冊当クラブに寄贈。感謝。
- ・水無瀬メンは西アフリカのベナンで活躍する日本女性の話を通してロールバックマラリアの意義を強調。

例会記録写真を毎月サポセンの親切な職員が撮ってくれる。感謝。ここでは背の高い于さんのお陰で平均年齢は下がり、平均身長は上がった。撮影後、水無瀬メンを思い出し、画面撮影で間に合った。（浅羽記）❖



ゲスト：于・森下・宮原 メンバー：衣笠・伊藤・高岡・上松・水無瀬（ズーム参加）・浅羽・伸縮棒つきバナー

YMCA World News

◆ 世界 YMCA 総主事会議、無事終了

* 以下は世界同盟 HP の一文をグーグル翻訳/抄訳したもの。HP の原文との照合可能。（文責 浅羽）

2025 年 2 月 17 日から 3 日間、ドイツのデュッセルドルフ市で各国 YMCA 同盟の総主事（NGS）が出席する世界総主事会議が開催され、世界各地から 45 人が参加。今回は特に「YMCA ビジョン（YV）2030」戦略を加速するのが主目的。議題は組織のガバナンス、資金調達の具体策、青少年の主体的参加など様々。会議を進める中で、どの YMCA も地域のニーズや活動の違いを尊重しつつ、なお YV2030 に一緒に貢献できることを確信出来た。

2026 年にトロント市で開催される YMCA 世界大会の準備の面では、執行委員の選出方法、ガバナンス、「運動は一つ」コンセプトの推進などに特別な注意が払われた。YV2030 戦略の 4 本柱（地域社会のウェルビーイング、働き甲斐のある仕事、持続可能な地球、公正な世界）に関しては、出席者から様々な課題への取り組みや、ベストプラクティスが紹介され、YMCA が積極的に社会を改善していける勢力であることを確認した。

また会議では「地域で起こす変化が世界を動かす」という発想の大切さと、YMCA が国レベルで戦略的に連携して運動の進歩を互いに可視化していくことの意義が強調された。



参加総主事たちは、会議の合間に現地のオーバーハウゼン YMCA のハウス・オブ・ヤング・ピープルを見学し、YMCA プログラムを若者に直接届けられる移動型ユース・センターである YMCA トラックも実際に見ることが出来た。これらの視察を通して各地の YMCA が地元のニーズとどう向き合い、若者の居場所を創っているかを学んだ。

この国際会議は戦略と経営について議論するためだけの場ではなかった。それ以上に YMCA 間の信頼を強め、同時に経営トップが社会やニーズの変化を適宜察知し、より臨機応変に対応しうるリーダー像を考えさせる好機となった。

＊現在 70 ヶ国の YMCA が YV 2030 に参画している。

れぞれ市の事情、市民の考え方に違いもあるだろうが、やはり地元で緑を味わえる場があると嬉しい。

月 1 回新宿「銅羅」の開店前、トラッド・ジャズの練習を続けている。仲間は都内、千葉、神奈川、埼玉から馳せ参じる。意気が合うと嬉しい。

◆ 張替滋夫さん（元東京世田谷クラブ）

〔電話便り〕昨秋、住み慣れた世田谷区から夫婦で千葉県に移った。小さな共同体での新生活は多少窮屈だが、慣れてきた。隣のカルチャーセンターは活動が多く、私は子供食堂のボランティアを月一回している。向かいの公園では週 3 回グラウンドゴルフを楽しんでいる。意外と毎日が忙しい。先日 NHK の番組に、以前世田谷クラブでマラリアについて卓話した女性がスクリーンにアップで出ていた。驚いたね。エッ、もう 15 分たった？とにかくここは空気がうまい。今度はこちらから電話するね。

＊ 埼玉 Ys の伊藤メンはいとこ。数年前のクリスマス例会にギタートリオとして出演し、ラテン音楽を披露。

＊〔電話便り〕は当方が電話で相手の近況を短時間聞き取って、先方の了解をとって掲載しています。（編集士）

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会 (02/10)	8	3	5
月例会 (02/17)	9	6	3



仲間からの便り



◆ 2 月の俳句 堀和光二郎メン（俳号 愚道）

粕汁に冷まし待てずに火傷かな

粕汁をつくる時から香りがよかったです。お砂糖の加減を覗て冷ますのを待てずに味見をしたら火傷しました。



粕汁でほろ酔ひになる下戸の爺

この甘さと香りがたまらず、ふた口、み口、と飲み続けていたらポカポカしてきました。あれ？と思って鏡を見たら真っ赤か、そうだしや下戸だった。

度足らずのメガネで探す春兆し

メガネが合わず見えないなと思いつつ周りを見回して春の雰囲気を感じています。

◆ 浅羽俊一郎メン

先日、地域活動を進めている人たちの学習会で聞いた話。さいたま市とロンドンの緑地面積を比べると 10 年ほど前まで両者とも市の面積の 48% が緑地だったのが、ここにきてロンドンが 51% まで増えたのに、さいたま市は 37% まで減った、とのこと。そ

〔編集始末記〕ブリテン発行が遅れて、俳句の句の味わいを損なっている。投稿してくれる堀和光メンに詫言のしかないが、読者諸氏には時期遅れの俳句もそれなりに味わっていただくと嬉しい。さて 2 月号も月をまたいで発行することになった。この月が 28 日までだということをおぼえていた。来月こそ月内に発行したい。最後に。我らジェンダー学習者は 3 月 8 日が国際女性デーであること忘れてはなるまい。ミモザの日と言う。



ワイズメンズクラブ 紹介

ワイズメンズクラブ国際協会（Y's Men International）は世界的な社会教育団体 YMCA を支える社会人クラブの国際的な繋がり。若者と地域への奉仕と、国内外の交流を進めています。肩書き・性別・政治・宗教・年齢差を問わず、皆が対等。ボランティア活動はしたいけれど、最初の一步が踏み出せないという方、ワイズからスタートしませんか。随時募集しています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動してきて、再来年 50 周年です。活動は「月例会」（サポセン）と「夜談会」（サイゼリア）と YMCA サポート。（年会費：40,000 円）

＊詳細は埼玉クラブ会長 浅羽まで。（090-7426-5553）

＊Y's Men International 東日本区の URL は
<https://ys-east.or.jp/#gsc.tab=0>